

その時 議会は

その3

報道されなかつた 三河地震

1945（昭和20）年1月13日（土）午前3時38分。三河湾を震源とする震度6（現在の震度階級では7）の地震が発生しました。震源が浅くマグニチュード7.1と規模が大きかったにも関わらず、被害報告はごくわずかしかなかったため、現在でもこの地震について詳しいことは判っていませんが、死者は約2250名、負傷者約3600名、住家全壊約5550戸（幸田町の被害は、死者29名、負傷者若干名、住家の全壊40戸、半壊21戸（幸田町史）より）という大被害が生じたといわれています。地震が発生した当時は太平洋戦争中であり、報道管制がしかれ、国は

三河地震のことを一切報道するなと圧力をかけたからであるとも言われています。
深溝では、最高落差2メートル、最大水準ずれ1.3メートルの断層が深溝小学校の東端をかすめて通りました。復旧工事に関する記録はありませんが、大戦末期で物資が不足しており、大変であったと思われる。



西深溝の断層（地震前は平らな耕地）



現在の深溝断層

幸田100歳

戦争により

後回しになった

復旧予算

1945（昭和20）年12月6日午後2時から村議会が開会され、補正予算が審議されました。震災復旧事業として3万3646円30銭が県から補助されて、災害土木費4万9448円、震災復旧耕地事業補助3万4612円になりました。また、国庫補助国民学校震災復旧2万2392円があり、深溝学校修繕費6万6885円が可決されました。
（幸田町議会史より）



深溝里地内に設けられた避難小屋



校舎改築時に床下から現れた断層跡（昭和45年）



被災した当時の深溝小学校の校舎